

《開幕》森美術館開館20周年記念展

ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会

2023年4月19日(水)ー9月24日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

現代アートは未知の世界に出会い、学ぶ「世界の教室」

森美術館は、2023年4月19日(水)から9月24日(日)まで、森美術館開館20周年を記念して「ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会」を開催します。

1990年代以降、現代アートは欧米だけでなく世界の多様な歴史や文化的観点から考えられるようになりました。それはもはや学校の授業で考える図画工作や美術といった枠組みを遙かに越え、むしろ国語・算数・理科・社会など、あらゆる科目に通底する総合的な領域とも言えるようになってきました。それぞれの学問領域の最先端では、研究者が世界の「わからない」を探求し、歴史を掘り起こし、過去から未来に向けて新しい発見や発明を積み重ね、私たちの世界の認識をより豊かなものにしていきます。現代アーティストが私たちの固定観念をクリエイティブに越えていこうとする姿勢もまた、こうした「わからない」の探求に繋がっています。そして、現代美術館はまさにそうした未知の世界に出会い、学ぶ「世界の教室」とも言えるでしょう。

本展は、学校で習う教科を現代アートの入口とし、見たことのない、知らなかった世界に多様な観点から出会う試みです。展覧会のセクションは「国語」、「社会」、「哲学」、「算数」、「理科」、「音楽」、「体育」、「総合」に分かれていますが、実際それぞれの作品は複数の科目や領域に通じています。また、当館の企画展としては初めて、出展作品約150点の半数以上を森美術館のコレクションが占める一方、本展のための新作も披露され、54組のアーティストによる学びの場、「世界の教室」が創出されます。

出展アーティスト *アーティスト名のアルファベット順

アイ・ウェイウェイ(艾未未)、青山 悟、エリカ・ベックマン、ヨーゼフ・ボイス、ヨハンナ・ビルング、ルーク・チン(程展緯)、マノン・デ・プール、サム・フォールズ、ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス、藤井 光、ク・ミンジャ、シルパ・グプタ、島山直哉、アジズ・ハザラ、スーザン・ヒラー、ジャカルタ・ウェイステッド・アーティスト、クリスチャン・ヤンコフスキー、片山真妃、風間サチコ、菊地智子、ヤコブ・キルケゴール、ジョセフ・コスース、ディン・Q・レ、李禹煥(リウファン)、クララ・リデン、パーク・マッカーサー、マリオ・メルツ、ミヤギフシ、宮島達男、宮永愛子、森村泰昌、奈良美智、パンクロック・スウラップ、ソピアアップ・ピッチ、アラヤー・ラートチャムルンスック、ヴァンディー・ラッタナ、ジェームス・リチャーズ、ハラーイル・サルキシアン、笹本 晃、瀬戸桃子、杉本博司、マルティーン・シムズ、田島美加、高山 明、田村友一郎、ロデル・タパヤ、ツァイ・チャウエイ(蔡佳葳)、ツェ・スーメイ、梅津庸一、ワン・チンソン(王慶松)、ヤン・ヘグユ、イー・イラン、米田知子、ユ・チェンタ(余政達)



ワン・チンソン(王慶松)
《フォローミー》
2003年
Cプリント
60×150 cm
所蔵：森美術館(東京)

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

開催概要

展覧会名: 森美術館開館20周年記念展

「ワールド・クラスルーム: 現代アートの国語・算数・理科・社会」

主催: 森美術館

20周年記念協賛: 株式会社大林組、清水建設株式会社、鹿島建設株式会社

協賛: あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社竹中工務店、

日本文教出版株式会社、株式会社ベネッセホールディングス

助成: 公益財団法人野村財団

企画: 片岡真実(森美術館館長)

熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)

椿 玲子(森美術館キュレーター)

徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

矢作 学(森美術館アシスタント・キュレーター)

マーティン・ゲルマン(森美術館アジャクト・キュレーター)

会期: 2023年4月19日(水)–9月24日(日)

会場: 森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間: 10:00–22:00(火曜日のみ17:00まで。ただし5月2日[火]、8月15日[火]は22:00まで)

* 入館は閉館時間の30分前まで * 会期中無休

入館料:

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円
学生(高校・大学生)	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
子供(4歳~中学生)	800円	700円	900円	800円
シニア(65歳以上)	1,700円	1,500円	1,900円	1,700円

* 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。

* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。

* 表示料金は消費税込

* 音声ガイド付チケット(+500円)も販売しています。

* 東京シティビュー(屋内展望台)、スカイデッキ(屋上展望台)、森アーツセンターギャラリーへの入館は別料金になります。ただし、東京シティビューで開催中の「ヘザウィック・スタジオ展: 共感する建築」(~6/4)にご入館の方は、+500円の追加料金にて本展へご入館いただけます。

一般のお問い合わせ: Tel:050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/worldclassroom/>



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原

Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展のみどころ

■ 現代アートを8つの教科で紹介

本展では、現代アートを美術や図画工作といった教科の枠組みから解き放ち、「国語」、「社会」、「哲学」、「算数」、「理科」、「音楽」、「体育」、「総合」の8つの科目別のセクションで紹介します。作品を通して未知の世界に出会い、学ぶ、まさしく美術館がすべての人に開かれた「世界を学ぶ教室」となる展覧会です。また、今回は小企画展の展示室も使い、1,800㎡を超える展示スペースで大規模に展開します。

■ 出展作品の半数以上が森美術館のコレクション作品

パンデミックによる移動・輸送制限等により、世界の美術館で自館のコレクションやローカルなアーティストの活動に改めて注目する動きが見られました。また、SDGsの観点からも、作品輸送をはじめ美術館活動に要するエネルギーに関して、あらためて考える好機となりました。本展は、出展作品約150点のうち半数以上を森美術館のコレクション作品で構成します。現在約460点を有する「森美術館コレクション」は、展覧会を機に収蔵した作品も多く、森美術館のこれまでの活動の軌跡でもあります。

■ 現代美術史で参照すべき重要な作品を展示

現代アートをさまざまな視点から振り返る際に参照すべき重要な作品を展示します。ジョセフ・コッススは作品の見た目ではなく、アイディアやコンセプトこそが肝要であるとした1960年代のコンセプチュアル・アートの主要作家です。この考え方は今日の現代アートの底流をなすもので、コッススの《1つと3つのシャベル》(1965年)はその象徴的な作品です。また、20世紀の美術史のなかで最も影響力のあるアーティストのひとりヨーゼフ・ボイスは、誰もが芸術家として柔軟な社会を作ることに参加する、拡張された芸術の概念「社会彫刻」を提唱しました。本展では、彼が1984年に初来日した際、東京藝術大学の講義で使用し、その筆跡が残された黒板を展示します。ボイス本人との対話は、その後アーティストやキュレーターになった多くの日本の若者に、並々ならぬ影響を与えました。

■ 世界的に活躍するアーティストたちの新作にも注目

いま最も注目を集めるヤン・ヘグジュは、日系ブラジル人アーティスト大竹富江の彫刻作品や、エネルギー問題、気候変動など、世界のさまざまな事象を引用した新作インスタレーションを発表します。他に、ヤコブ・キルケゴール、パーク・マッカーサー、宮永愛子による本展のための新作も展示します。

■ 数字とインフォグラフィックで見る森美術館の20年

森美術館が開館して20年。これまで59の企画展、72の小企画展、そしてラーニングをはじめ数々の関連プログラムを行ってきました。展覧会の入口には、これまで森美術館で展示を行ったアーティストおよびユニット名を出身地域毎に示した世界地図が登場。総勢約1,600組の名前を総覧することができます。また展覧会の出口では、20年の活動を振り返り、これまでの総入館者数やラーニング・プログラム数などを、数字とインフォグラフィックで紹介していきます。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

展覧会の構成：8つのセクション

1. 国語

「国語」のセクションでは、言葉や言語をテーマにした作品、文学や詩の要素を含む作品を紹介します。「言語」は、文学や詩といった表現に加え、現代アートでも、コンセプチュアル・アートの流れのなかで頻繁に使われてきました。コンセプチュアル・アートの提唱者のひとりである**ジョセフ・コースス**、また言語を取り巻く政治性や社会性を題材とした**スーザン・ヒラー**、国籍や人種、ジェンダーというアイデンティティをテーマとする**ミヤギフトシヤ**、**米田知子**、**ワン・チンソン(王慶松)**、**イー・イラン**の作品を展示します。



米田知子
《谷崎潤一郎の眼鏡—松子夫人への手紙を見る》
([見えるものと見えないもののあいだ]シリーズより)
1999年
ゼラチン・シルバー・プリント
120×120 cm
所蔵：森美術館(東京)

2. 社会

本展で最も大きなボリュームを占める「社会」セクションでは、「社会彫刻」という概念を提唱した**ヨーゼフ・ボイス**が来日した際に残した黒板から始まり、世界各地の歴史、政治、地理、経済、アイデンティティに関わる課題を取りあげます。1990年代以降、グローバル化する世界の各地域からアートが発信されるようになり、アーティストたちは正史とされる歴史や国家レベルの大きな物語からこぼれ落ちる個々の物語、あるいはマイノリティの視点を拾い上げ、世界の見方を増やし、多様化させていく役割を担っていると言えるでしょう。美術史を主題とした**アイ・ウェイウェイ(艾未未)**や**森村泰昌**、戦争や暴力、災害が残したものに向き合う**ディン・Q・レ**や**藤井光**、**畠山直哉**、そして日本では初展示となる**パーク・マッカーサー**は都市のアクセシビリティをテーマとした新作を発表します。また、**田村友一郎**や**ク・ミンジャ**は、私たちの生活を取り巻く経済についての作品を展示します。



森村泰昌
《モデルヌ・オランピア2018》
2017-2018年
Cプリント、透明メディウム
210×300 cm
所蔵：森美術館(東京)
展示撮影：武藤滋生

3. 哲学

生きることや世界の真理、普遍性を探究する哲学の分野は、古くから美術と非常に深い関係にありました。人間が生まれ、生き、そして死ぬということの全てに哲学は関係し、それは美術も同様です。また、どちらも人生や世界の根本原理を解き明かそうとし、定まった答えのない問いに取り組み続けるという点も共通しています。本セクションでは、明滅するLEDのカウンターによって仏教的な死生観をあらわす**宮島達男**、ものの存在や周囲との関係性を追求してきた**李禹煥(リ・ウファン)**、そして**奈良美智**の祈りをささげているかのような少女を描いた絵画などを展示します。時間、自然、死後の世界、そこに「在る」ということ、そして信仰や救済といったテーマをもつ作品は、それぞれのアーティストが世界をどのように観察し、捉え、そして表現するのかを見せてくれるでしょう。



宮島達男
《Innumerable Life/Buddha CC100-01》
2018年
発光ダイオード、電子回路、電線、スチール、ステンレス、変圧器、LED「Time Hundred」タイプ(赤) 100プレート
251.7×251.7×15 cm
所蔵：森美術館(東京)
撮影：表 恒匡
画像提供：Lisson Gallery

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

4. 算数

算数あるいは数学は、極めてクリエイティブな領域でもあります。数字は多くのアーティストが扱ってきた普遍的なテーマである「時間」にも深く関係します。美術の歴史を振り返ってみると、ルネサンス期には芸術だけでなく、数学、科学、解剖学、天文学などの領域を横断したレオナルド・ダ・ヴィンチや、数学者としても知られたアルブレヒト・デューラーのような存在もあり、数学者のルカ・パチョーリが『神聖比例論』(1509年)で述べた黄金比は芸術とも深く関わっています。本セクションは、フィボナッチ級数をネオン管で表した**マリオ・メルツ**の大型作品で幕を開け、**片山真妃**、**杉本博司**、そして数学的な概念をパフォーマンスに投影した**笹本晃**の映像作品へと続きます。



杉本博司
《観念の形 0010 負の定曲率回転面》
2004年
ゼラチン・シルバー・プリント
58.4×47 cm
Courtesy: ギャラリー小柳(東京)

5. 理科

物理、生物、化学など、自然科学の領域とも、現代アートは無関係ではありません。世界各地の生態系は、自ずとアーティストが作品に採用する素材に投影され、科学的な視点から見えてくる世界の法則や自然のすがたは、アーティストの創造性を刺激してきました。また、今日のグローバルな最重要課題のひとつである気候危機や環境問題も、アーティストたちが長らく警鐘を鳴らしてきたものです。さまざまな日用品が次々に連鎖反応を起こし、エネルギーを伝達してゆく様子を捉えた**ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス**や**瀬戸桃子**の映像作品、そしてナフタリンを用いた**宮永愛子**の新作や、ブラックライトを使用した**田島美加**の作品などを展示します。



瀬戸桃子
《プラネット》
2014年
ビデオ、サウンド
11分40秒(ループ)
所蔵: 森美術館(東京)

6. 音楽

音楽は、空気の振動という意味では理科や算数と並び、科学的な領域でもあります。現代アートでは、音や音楽に関連する視覚的な要素を主題にする作品や、音や音響の意味や仕組みを考えさせるコンセプチュアル・アートがあり、実際に音を体験するもの、または音の不在を体感するものもあります。ジョン・ケージの《4分33秒》を流用する**マノン・デ・ブール**の映像作品は、ピアニストと観客の両方に焦点を当て、沈黙の時間を演出します。また、音楽は宗教的儀式にも使われるなどアイデンティティとも深い関係があります。アフガニスタンの夜景にイスラム教の詠唱が流れる**アジズ・ハザラ**の詩的映像、旧ユーゴスラビアで内戦後に生まれた子供たちが「マジカル・ワールド」を歌う**ヨハンナ・ビリング**の作品、黒人女性を想起させる手の動きやサウンドに焦点をあてた**マルティーン・シムズ**の作品などを紹介します。



ヨハンナ・ビリング
《マジカル・ワールド》
2005年
ビデオ、サウンド
6分12秒(ループ)
Courtesy: Hollybush Gardens(ロンドン)

*前期と後期に分けて、スクリーニング形式で作品を上映します。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

7. 体育

現代アートにおける身体的な運動や行動に着目した表現、身体そのものの作品化は、1960年代から「パフォーマンス」としてその位置づけを確立し、今日では映像作品の主題となることもしばしばです。**クララ・リデン**がバレエを通じて表現する規範と模倣など、アーティストは自身の身体を用いて多様なテーマを表現しています。また、**クリスチャン・ヤンコフスキー**の作品に見られるように歴史とそこからの解放といった「身体の政治性」を表象する役割を果たすこともあります。さらに本展では、競技が行われるスタジアムの建築的な特徴に注目したり、マスメディアで映し出されるスポーツにも焦点を当て、この科目がもつ社会への広がりも考察します。

*前期と後期に分けて、スクリーニング形式で作品を上映します。



クリスチャン・ヤンコフスキー
《重量級の歴史》
2013年
ビデオ、サウンド
25分46秒
Courtesy: Lisson Gallery

8. 総合

本展の作品はどれも、単一の科目や言葉、セクションといった枠組みに、すっかり収まってしまうようなものではありません。国語セクションの作品のなかにも数学的なテーマがあり、理科のなかにも社会的な課題が含まれています。最後のセクションである「総合」では、そうしたひとつの科目に収まらず、より幅広い領域を横断するような作品やプロジェクトを紹介します。現在、世界で最も注目を集めるアーティストのひとりである**ヤン・ヘギュ**と、デンマークを中心に世界的に活躍する**ヤコブ・キルクゴール**は、本展のための新作を発表します。また、演劇に基づいた方法論をもとに、東京という大都市の、日常的な景色を、私たち自身の意識によって変容させてゆく、**高山明**のプロジェクトを紹介します。



ヤン・ヘギュ
《ソニック・ハイブリッド—デュアル・エナジー》
《ソニック・ハイブリッド—冷却反転》と《ソニック・ハイブリッド—移り住む、オオタケにならって》
2023年
所蔵: 森美術館(東京)
撮影: Studio Haegue Yang

「音楽」、「体育」の上映作品

上映スケジュールについては、森美術館ウェブサイトをご覧ください。 www.mori.art.museum

前期: 2023年4月19日(水)~7月4日(火) 上映時間約45分

音楽	マノン・デ・ブール	《二度の4分33秒》	2008年	12分36秒
	ツェ・スーメイ	《エコー》	2003年	4分55秒
	アジズ・ハザラ	《タクビール》(神への祈り)	2022年	9分58秒
体育	クララ・リデン	《ウォームアップ:エルミタージュ劇場》	2014年	4分20秒
	ユ・チェンタ(余政達)	《形容詞 ダンス》	2010年	5分11秒
	エリカ・ベックマン	《テンション・ビルディング》	2017年	8分16秒

後期: 2023年7月5日(水)~9月24日(日) 上映時間約56分

音楽	ヨハンナ・ビリング	《マジカル・ワールド》	2005年	6分12秒
	ジェームス・リチャーズ	《夜のラジオ(エクステンデッド・バージョン)》	2015年	13分39秒
	マルティーン・シムズ	《身振りについての注釈》	2015年	10分30秒
体育	クリスチャン・ヤンコフスキー	《重量級の歴史》	2013年	25分46秒

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

?! 展覧会関連プログラム

■ 特別企画：立教大学×森美術館共同プロジェクト

森美術館ラーニングでは、現代アートを学校で学ぶあらゆる教科に通底する総合的な領域として捉える本展のコンセプトを体現するプログラムを、展覧会会期を通して開催します。会期前半には、学校法人立教学院の後援による2つのプログラムを、大学、高等学校、中学校の各教育現場と美術館とをつなぎ実施します。

◆ トークセッション・シリーズ「知らない世界とつながってみる」 ※日英同時通訳付

世界各地から同時代に発信される現代アートは、それぞれの時代や場所の歴史、アーティストのアイデンティティ等を反映した多様な価値観との出会いを創出し、知らない世界と普遍的なつながりを見出す機会でもあります。学校教育もまた、「世界」を多様な角度から学ぶ場ですが、今日の学問は体系化され、さまざまな専門分野に分かれています。森美術館が立教大学と共同企画するトークセッション「知らない世界とつながってみる」では、文学、社会、哲学、数学、科学など各分野で今まさに議論されていることを学びながら、分野相互のつながり、現代アートとのつながり、「世界」の多様性と普遍性などについて語ります。

日時：1)2023年6月16日(金)18:00~20:30

2)2023年6月17日(土)14:00~19:00

3)2023年6月18日(日)14:00~18:30

会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員：各日150名(要予約) 料金：有料(料金の詳細は後日ウェブサイトにてお知らせいたします)

主催：森美術館、立教大学文学部人文研究センター 後援：学校法人立教学院

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

※各トークセッションには立教大学教授陣の他、キュレーター、アーティストなどが出演予定です。

出演者の詳細は後日ウェブサイトにてお知らせいたします。

1日目：6月16日(金)18:00~20:30

イントロダクション

出演：西原廉太(立教大学総長、文学部キリスト教学科 教授)、片岡真実(森美術館館長)

トークセッション1

出演：蜂飼 耳(詩人、立教大学文学部文学科 教授)ほか

2日目：6月17日(土)14:00~19:00

トークセッション2

出演：亀田真吾(立教大学理学部物理学科 教授、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 特任教授)ほか

トークセッション3

出演：小泉元宏(立教大学社会学部現代文化学科 教授)ほか

トークセッション4

出演：山形真理子(立教大学学校・社会教育講座学芸員課程 特任教授)ほか

3日目：6月18日(日)14:00~18:30

トークセッション5

出演：奥野克巳(立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 教授)ほか

トークセッション6

出演：加藤磨珠枝(立教大学文学部キリスト教学科 教授)ほか

総合の時間

出演：奥野克巳(立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 教授)、

加藤磨珠枝(立教大学文学部キリスト教学科 教授)、片岡真実(森美術館館長)ほか

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

◆ アート・キャンプ Vol.10「ワールド・クラスルーム ユース・アンバサダー」 ※日本語のみ

立教中、高、大の学生を対象としたプログラム。参加者は本展のユース・アンバサダーとなり、現代アートについて森美術館館長によるレクチャーを受講後、展覧会を企画したキュレーターや美術館スタッフと一緒に、作品解説の作成に挑戦します。ユース・アンバサダーが作成した解説は2023年8月以降、展覧会場内で公開予定です。

活動期間: 2023年5月14日(日)~6月25日(日)期間中全4回

会場: 森美術館

対象: 立教池袋中学・高等学校、立教新座中学・高等学校、立教大学の学生 ※一般の募集はありません

定員: 約30名

主催: 森美術館 **後援:** 学校法人立教学院

■ まちと美術館のプログラム**「アート・キャンプ for under 22 Vol.11: IN/BETWEEN: 美術館をつなぐ」**

※日本語のみ

2021年、コロナ禍に始まった森美術館と坂本善三美術館(熊本県小国町)との連携プログラム。3年目を迎えた今年、1回目は、森美術館で開催中の展覧会「ワールド・クラスルーム」をオンラインで鑑賞。2回目は、「おぐに美術部」^{*1}の中学生メンバー企画による坂本善三美術館の展覧会「コレクション・リーディング vol.7 おぐに美術部と作る善三展『好きなものを好きって言う』with 森美術館」^{*2}の企画背景について話を聞き、3回目は、現地で開催されるラーニング・プログラムをオンラインで体験します。双方の美術館における自館のコレクションを使った展覧会をとおして、アーティストや美術館スタッフと出会い、自分の言葉でアートについて語ります。アート鑑賞を通して「他者を知ること」を目的とした、全4日間のプログラムです。

※1 坂本善三美術館が中心になり、熊本県小国町の中学校で美術部がなくなったことを受けて2021年4月からスタートした「地域の美術部」。隣り合う2つの町の中高生からなる美術部のメンバーが主体となって美術館スタッフと活動を展開する。森ビル・森美術館では、2021年5月からまちと美術館のプログラムとして森美術館のラーニング・プログラム「アート・キャンプ」参加者とおぐに美術部との地域を越えた交流を継続している。

※2 会期: 2023年7月22日(土)~11月26日(日)予定

日程: 2023年6月27日(火)、7月18日(火)、7月22日(土)、8月1日(火)全4回 ※全日程にご参加ください

出演: 山田 毅(美術家、只本屋代表)、山下弘子(坂本善三美術館学芸員)

会場: Zoomを使っのオンライン・プログラムとして実施します。

対象: 13歳~22歳 **定員:** 30名(要予約) **料金:** 無料

主催: 森ビル株式会社、森美術館、坂本善三美術館

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

※実施内容の詳細については、後日森美術館ウェブサイトにて告知いたします。

■ 学校と美術館のためのプログラム ※日本語のみ

現代アートと子どもたちの学びや学校と美術館の連携について、教育現場に立つ皆さんと森美術館スタッフがディスカッションします。図工や美術のみならず、美術館の活用に関心を寄せている他教科の先生も、ぜひご参加ください。

日時: 2023年7月28日(金)16:00~18:00

会場: 森美術館オーディトリウム

対象: 保育園、幼稚園、小・中学校、高校、大学、専門学校の教員

定員: 15名(要予約、先着順) **料金:** 無料

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

■ アクセス・オンライン・プログラム「オンラインでアート」 ※日本語のみ

森美術館ラーニング・スタッフが開催中の展覧会を紹介しながら、現代アートの楽しみ方や森美術館がある六本木のアートの楽しみ方などについてお話しします。参加される方に合わせた対話形式で実施しますので、まだ森美術館に来たことがない方、思うように外出ができない方、どなたでも気軽にご参加ください。お申し込みの際に、言葉での作品の説明や手話での対話など、必要なお手伝いについてお知らせください。

日時：1) 2023年8月31日(木)12:00~13:15 2) 2023年9月14日(木)12:00~13:15

会場：Zoomを使つてのオンライン・プログラムとして実施します。定員：各10組(要予約、先着順) 料金：無料

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

* プログラムは予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

* このほかにも、アーティストトークやギャラリートーク、スクールプログラム、アクセスプログラムなどさまざまな企画を予定しています。

プログラムの詳細やお申し込みなどの最新情報は、森美術館ウェブサイトにてご確認ください。 www.mori.art.museum

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当

E-mail: mam-learning@mori.co.jp

関連情報

■ 音声ガイド

本展出品作品の解説と当館館長片岡真実のメッセージが収録された音声ガイドをウェブアプリにてご用意しています。

※スマートフォンやイヤフォンの貸し出しは行っておりませんのでご持参ください。

ガイド件数：全15件 解説時間：約30分 言語：日本語、英語

料金：500円(税込) 企画・制作：アイシアター 監修：森美術館

■ 展覧会カタログ

論考執筆者：片岡真実(森美術館館長)、デヴィッド・エリオット(インディペンデント・キュレーター、森美術館初代館長)、スハーニャ・ラフェル(M+館長、国際美術館会議会長)、アンガ・ウィジャヤ&レオナルド・バルトロメウス(グッスル・エコシステム)、白木栄世(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)

サイズ：A4変形(28.2×21cm) ページ数：176ページ 言語：日英バイリンガル

価格：3,960円(税込) 発売日：2023年4月19日 編著：森美術館

発行：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 美術出版社書籍編集部

販売場所：森美術館 ショップ 53(六本木ヒルズ森タワー53階)、

森美術館 ショップ(六本木ヒルズウェストウォーク3階)、

森美術館オンラインショップ(<https://shop.mori.art.museum/>)



お問い合わせ：森美術館 ショップ 53

Tel: 03-6406-6118 営業時間：10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) ※美術館の開館時間に準ずる

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 日比、松川、和田、伊原

Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp